

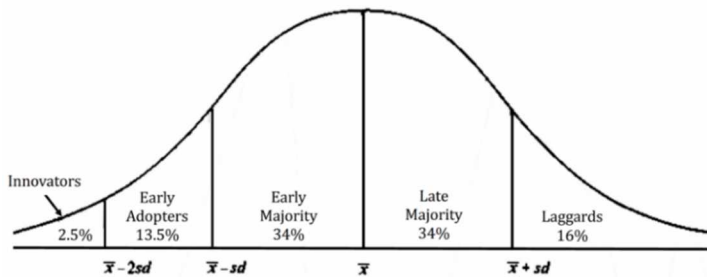
## E. M. Rogersのイノベーションの普及理論

技術革新が「どのような意味で有用なのか?」や「どの程度有用なのか?」は、ユーザーによって異なる。

20世紀前半期の新聞社は、競合他社とのニュース競争との関係で特ダネとなる写真や文書を少しでも早く入手し新聞に掲載できるようにすることが有用であったことから、郵便や伝書鳩といった通信手段よりも多額のコストがかかる専用線接続のFAXを利用した。しかし多くの企業はFAX利用にそこまでの必要性・有用性を見出さなかったため、多額のコストをかけて専用線接続のFAXを利用するようなことはしなかった。

技術革新の社会的普及の具体的進行に関しては、ユーザー層の多種多様性を考慮する必要がある。E.M. Rogers はそうしたユーザー層の多様性に関して、イノベーションの採用時期に基づき、下記の5つのタイプに分類するとともに、イノベーションの採用者数は下図のように採用時期に応じて正規分布曲線を描くとしている。

図1 イノベーション採用時期の違いによるユーザー層の5類型



1. Innovators(先駆的採用者)
2. Early Adopters(初期採用者)
3. Early Majority(前期多数採用者)
4. Late Majority(後期多数採用者)
5. Laggards(採用地帯者)

[図の出典]Rogers, E.M.(1983) *Diffusion of innovations*, 3rd ed. Free Press, p.247

Rogers によれば、**Innovators** とは、「冒険的なことやせつかなこと、大胆なこと、そして危険なこと」を求め、「不適当なイノベーションによる損失に耐え得るだけの十分な財源」を持ち、「複雑な技術上の知識を理解し、適用する能力」を持つ人々である。[Rogers, E.M.(青池慎一ほか監訳,1990)『イノベーションの普及学』産能大学出版部,pp.358-259]

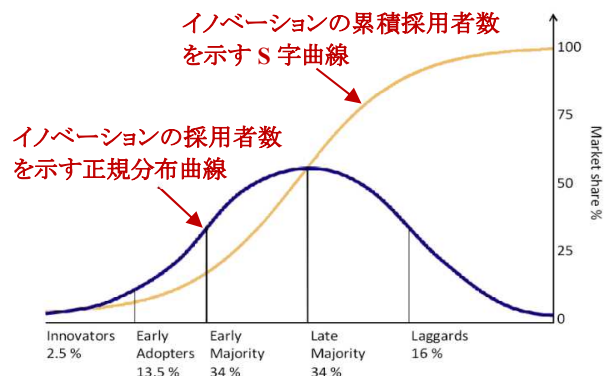
また **Early Adopters** とは、「平均的な人と比べて、それほどかけ離れて革新的すぎることがない」人々であるから、自らが属する社会集団の他の多くのメンバーに代わって「新しいアイデアを使用する前の点検」をし、「新しいアイデアに関する不確定性を減少」させてくれる人々である、とされている。また「平均的な人と比べて、それほどかけ離れて革新的すぎることがない」人々であることによって、「そのイノベーションに対する主観的評価を、個人間ネットワークを通して身近な仲間達に伝える」ことができ、他の人々を導くオピニオン・リーダーシップが高い、とされている。

Rogers はおこなっていないが、仮に「イノベーション偏差値」で考えると、Innovators は 70 点以上、Early Adopters は 60 点台という高偏差値であることになる。

イノベーションの採用者数は、最初は Innovators に限られるため少数に止まり、社会的普及率はゆっくりとしか上昇しない。Early Adopters, Early Majority というように普及が進むにつれて、社会的普及率は図 2 や図 3 に示されているように急激に上昇し始めるのである。すなわち、イノベーションの採用者数が採用時期に応じて、左図の青色の曲線のような正規分布曲線を描く結果として、イノベーションの累積採用者数(FAX の場合で言えば累積設置台数)は左図の黄色の線のような S 字曲線を描く。

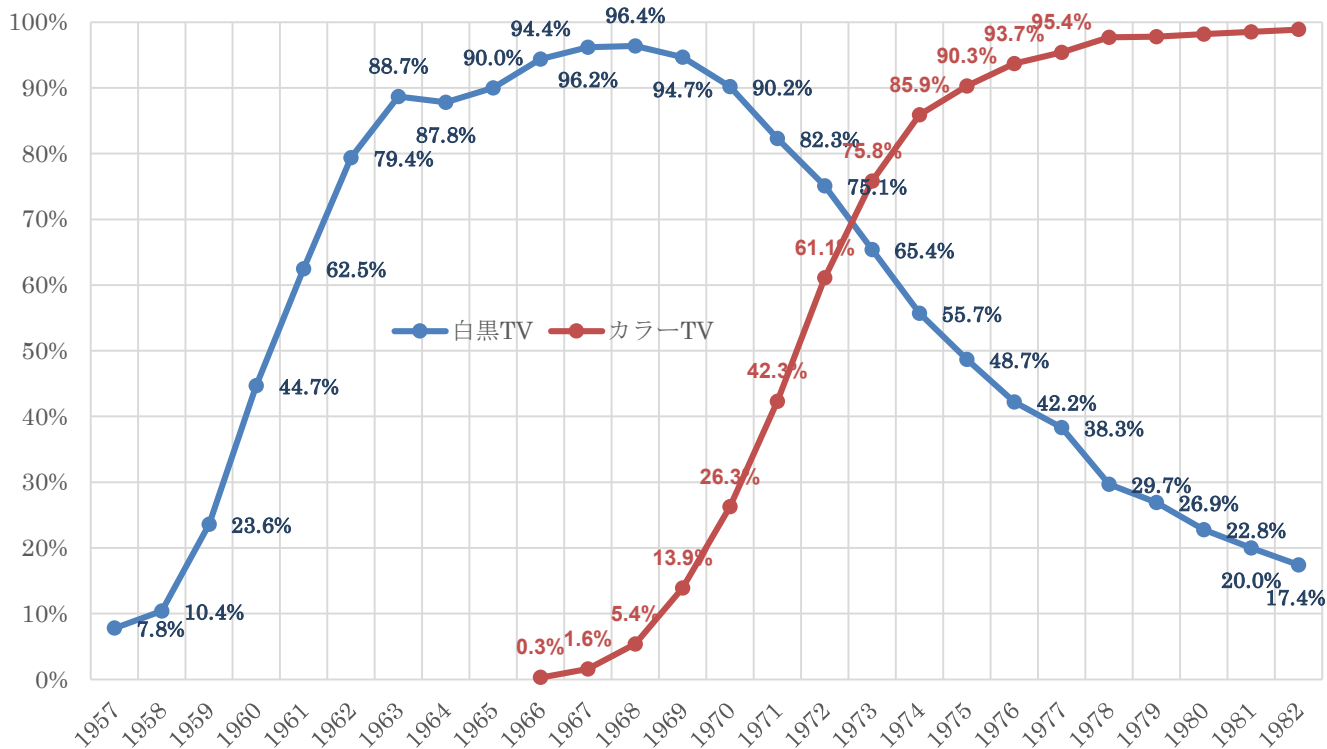
様々な製品の世帯普及率のグラフが S 字曲線を描くということは、E.M.Rogers が想定したユーザー類型が正しいかどうかは別として、イノベーションの採用者数が E.M.Rogers が想定するような正規分布を描くということを意味している。

図2 E.M.Rogers の採用者分布から導かれるイノベーションの S 字カーブ型普及曲線



[出典]ウィキペディア「普及学」(<https://ja.wikipedia.org/wiki/普及学>)の中の「ロジャースによるイノベーションの普及プロセス」に関する図に、付加的説明を入れた。

図3 日本における白黒TV、カラーTVの世帯普及率(全世帯)の歴史的推移 1957-1982

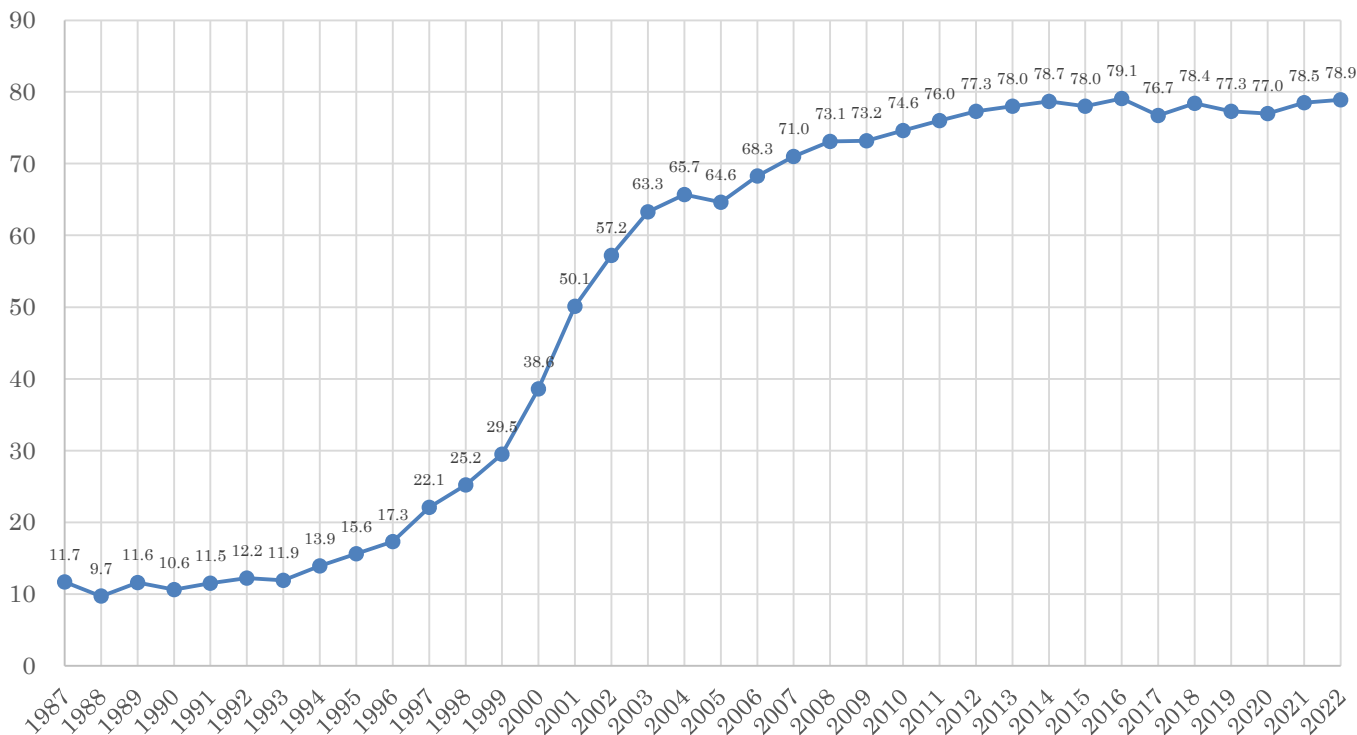


[数値の出典]内閣府「主要耐久消費財等の普及率(全世帯)」消費動向調査

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1167457/www.esri.cao.go.jp/jp/stat/shouhi/quarter/0403fukyuritsu.xls>

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/shouhi/shouhi.html>

図4 日本におけるパソコンの世帯普及率(二人以上)の歴史的推移 1987-2022



[数値の出典]内閣府「主要耐久消費財等の普及率(二人以上の世帯)」消費動向調査

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000040046130&fileKind=0>